

地震に備えよう

わが家の地震対策

・家の周囲の安全対策

屋根

不安定な屋根のアンテナや 屋根は補強しておく

ベランダ

植木鉢などの整理整頓をし、 落ちる危険がある場所には何 も置かない

飛散防止フィルムをはる



2 家の中の安全対策

- ・家の中に逃げ場としての安全な空間を作る
- ・寝室、子供やお年寄りのいる部屋には家具を置かない
- ・割れたものなどでケガをしないよう、スリッパなどを用意しておく
- ・安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない



ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎

部分がないもの、鉄筋が入

っていないものは危険な

家具の転落、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒な どで固定する。二段重 ねの場合はつなぎ目 を金具でしっかり連 結しておく。



2ドアの場合は、扉と 扉の間に針金などを 巻いて、金具で壁に 固定する。

冷蔵庫



テレビ



具をつける。

転倒防止バンドなどで テレビ台とテレビを固 定したり、粘着パッドを テレビの足に貼り付け て固定する。

L字金具などで固定し、 棚板には滑りにくい材質

チェーンと金具を のシートやふきんなどを 使って数カ所止める。 蛍光灯は蛍光管の両 重い食器は下に、軽い食 端を耐熱テープで止 器は上の方に置く。扉が めておく。 開かないように止め金



ピアノ

本体にナイロンテー プなどを巻きつけ、 取りつけた金具など で固定する。脚には、 すべり止めをつける。



地震直後に気をつけること

地震発生)~ 2分

グラッと来たら 身の安全の確保

強い揺れを感じたら、まずは自分の身 を安全に守れるように心がけましょう。 現在は震度5弱以上の揺れを感知す ると、自動的にガスが止まるように なっているので、慌ててコンロの火を 止める必要はありません。大きな揺れ の中、無理に消すそうとするのはやけ どをする恐れがあり大変危険です。

2分~5分

^{ぽれがおさ} 火の始末・出口の確保

揺れがおさまったら、火の始末を行い ましょう。必ず消火器を備え、すぐに使 用できるところに置いておきましょう。 消火器の使用方法は、日頃から確認し ておきましょう。

また余震に備え、ドアを開けるなど出口 を確保しましょう。

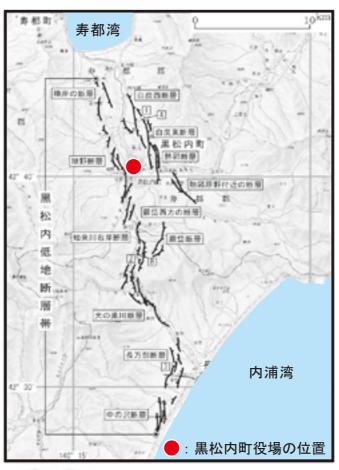
5分~10分

わが家の安全確認・避難の準備

家族や隣近所の安全を確認しましょ う。余震で被害拡大の恐れがある場合 はすぐに避難を開始しましょう。

避難する場合には、電気のブレーカー を落とし、ガスの元栓を閉めてから避 難しましょう。外出中の家族のために 避難先や安否情報を書いたメモを残 すことも大切です。

黒松内低地断層帯について



現在、日本全国には地質調査の結果、約200の断層帯(北海道 には9つ)が存在します。

本町を南北に縦断するように存在する「黒松内低地断層帯」は、 約200ある国内の断層帯のうち、将来巨大地震が発生する可能性 の高い順で「20位」、道内に9つある断層帯の中では「1位」です。

震源が浅い場合、最大震度7が予想されています。

私たちは、このような断層帯の近くで生活していることを認識して、 日頃から災害発生に備えましょう。

| 黒松内低地断層帯の長期評価 | |
|---------------|-------------------------------|
| | |
| 地震の規模 | M7.3以上※ |
| 地震発生確率 | 2% ~ 5% 以下(30 年以内) |
| 平均活動間隔 | 3,600 ~ 5,000 年程度以上 |
| 最新活動時期 | 約 5,900 年前以後、約 4,900 年前以前 |
| ※北海道南西沖地震(| 1993年)でM78、阪袖淡路大震災(1995年)でM73 |

(地震本部 HP 平成 17年調査 より抜粋)



暴風雪に備えよう

暴風雪に関する気象警報などが発表されたとき、外出しないことが身の安全を守るための最善の対策です。 暴風雪から身を守るための対策を日頃から理解し、いざというときに備えてください。

家の中で安全に過ごすために

中毒

─酸化炭素 雪で FF 式暖房機の給排気口がふさがれると、一酸化炭素が家の中で充満して命に危険が及ぶ可能性があり ます。給排気口が雪でふさがれていないか定期的に確認してください。

陸の孤島

道路の通行止めによって交通網が寸断され、食品や日常生活用品などの物流がストップする可能性がありま す。食料や日頃から服用している薬など、万が一のために備えておきましょう。

□スコップ

スノーブラシ

暴風雪によって停電が発生する可能性があります。懐中電灯、携帯ラジオ、電気を使わない暖房器具なども準 備しておきましょう(P11の「停電に備えましょう」も参考にして下さい)。暖房器具やカセットコンロは30 分に一度はしっかり換気して使用しましょう。

やむを得ず車で外出するときは

天気の急変など車が立ち往生することを想定して以下の物品を車に備えておきましょう。 また、十分に燃料があることを確認しましょう。

- □毛布 □カイロ
- □手袋・帽子
- □防寒着 □けん引ロープ
 - □ブースター

ケーブル

- □寝袋
- □食料・飲料水 □携帯トイレ

□長靴



車の外に出て大丈夫な状況ですか?

もしも吹雪で車が動けなくなったときは!



ラジオや携帯電話で気象情報、道路情報を確認しましょう。

近くに施設はありますか?

ホワイトアウトの場合は収まるまで車内で待ちましょう。

□スノーヘルパー

マフラーの状況に注意しましょう

マフラーが雪に埋まらないようにこまめにマフラーの周り を除雪しましょう。

救助を依頼しましょう

道の駅等の施設があれば避難し、天気の回復を待ちましょう。 JAF 等のロードサービスや近くの店・人家に救助を求めま しょう。近くにない場合は警察や消防に連絡しましょう。

原則エンジンは停止しましょう

エンジンを停止し、防寒着等で体温を維持し、救助を待ちましょう。

8